

2025年度 特別展 開催予定一覧

第1期特別展

「大正の夢 秘密の銘仙ものがたり」

4月12日(土)～6月15日(日)

〈銘仙〉(めいせん)とは、大正から昭和初期に女学生を中心に大流行した着物です。現代の着物にはない斬新な色柄が多く、胸ときめきわくわくさせられます。本展では、銘仙蒐集家・研究家である桐生正子氏の約600点のコレクションから選び抜いた約60点の銘仙を紹介。着物スタイリストの大野らふ氏のコーディネートでお届けします。銘仙でみるGirl's History。100年前の女学生文化は新しいことの連続、ささやかな闘いの歴史です。伝統的な日本の価値観に西洋の文化や考え方が流入してきた時代。そんな過渡期に生まれた若い女性たちのカルチャーを、銘仙を通してひもといてゆきます。



孔雀羽散らし文様単衣お召銘仙
伊勢崎 1930年～40年

第2期特別展

「星をみつめておもいだす さとうわきこ展」

6月28日(土)～8月31日(日)

大人気絵本シリーズ「ばばあちゃん」で知られる絵本作家・さとうわきこは、2024年に亡くなるまでの約60年間で、100冊以上の絵本を世に送り出してきました。ペンや絵の具などで丁寧に描かれた原画約150点を、数々の絵本から厳選し展示します。最後の作品となった「みちくさ」、100刷りを迎えた「せんたくかあちゃん」、出版から50年になる「おつかい」など世代を超えて愛されてきた作品を、追悼の意を込めて紹介します。



さとうわきこ「いそがしいよる」(福音館書店)より

第3期特別展

「Beyond Creation」永澤陽一の創造と革新

9月13日(土)～11月9日(日)

永澤陽一は、1990年代よりファッションデザイナーとして時代の先端に挑み続けました。自身のブランド「YOICHI NAGASAWA」で長年パリ・コレクションに参加し「毎日ファッション大賞」を受賞。さらに「無印良品」や「AEON」などの企業のプロデュースを手がける一方、金沢美術工芸大学名誉教授、国際ファッション専門職大学教授として後進の指導にも尽力、その後も国内外の展覧会に出展を続けています。本展では、その発想の源流と創造性に焦点を当て、次世代のクリエイティビティに新たな火を灯すことを目指します。



2006-2007AW YOICHI NAGASAWA
PARIS COLLECTION より

第4期特別展

「やすらぎの近代絵画 -ユニマツコレクション ミレーからワイエスまで-」

11月22日(土)～2026年1月18日(日)

オフィスコーヒーや介護、リゾートなどの事業を幅広く展開しているユニマツグループの創業者・高橋洋二氏が、長年にわたり収集し築き上げた西洋美術の一大コレクションから、選りすぐった精華を紹介します。同社の全面的協力を得て開催する本展では「やすらぎの美」をテーマに、ミレーなどバルビゾン派から、ルノワールやドガらの印象派、藤田嗣治などのエコール・ド・パリ、そしてアメリカの画家アンドリュー・ワイエスを含めた近代絵画約90点を展覧します。のどかな田園や水辺の風景、微笑ましい子どもの姿など、見る者にやすらぎをもたらす魅惑的な作品群による本展は、心豊かな生活を提案する収集家の質の高いコレクションの一端を堪能できる機会となるでしょう。



アメデオ・モディリアーニ
《ルニア・チェホフスカの肖像》1919年
ユニマツグループ蔵

第5期特別展

「THE新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」

2026年1月31日(土)～3月29日(日)

新版画は、伝統的な浮世絵版画の技術を用い、高い芸術性を意識した新時代の木版画です。これを牽引し世に広めたのが、版元・渡邊庄三郎(1885-1962)です。近年再評価が進み、その人気は再び高まりをみせています。アップルの創業者スティーブ・ジョブズが魅了され、蒐集したエピソードは特に有名です。特に希少な初摺の作品を通して新版画の魅力伝えるとともに、庄三郎の挑戦の軌跡を辿ります。伊東深水の美人画、川瀬巴水の風景画、小原祥邨の花鳥画、名取春仙の役者絵をはじめとする、モダンな精神に彩られた瑞々しい表現の魅力をどうぞご堪能ください。



川瀬巴水《東京十二題こま形河岸》1919年
渡邊木版美術画舗蔵